

化粧基準と化粧行動の日タイ比較

(2016年8月25日受付；2016年10月24日受理)

平松 隆円[#]

東亜大学

Structuring of Makeup Standard and Makeup Behavior in Japanese and Thai

Ryuen HIRAMATSU[#]

Associate Professor, University of East Asia, Shimonoseki Japan

Abstract

This research was conducted using a questionnaire survey involving 501 male and female university students in Japan and Thailand. It was made clear that structure of makeup standard consisted of "conformity", "individuality" and "sympathy" for both of Japanese and Thai. Also it was made clear that structure of makeup behaviors consisted of "skincare", "makeup", "cleansing" and "fragrance" for both of Japanese and Thai. For the Thai male students, it became clear that makeup behavior was specified by "conformity", "individuality" and "sympathy". For the Thai female students, it became clear that makeup behavior was specified by "conformity", "individuality" and "sympathy". For the Japanese male students, it became clear that makeup behavior was specified by "individuality" and "sympathy". For the Japanese female students, it became clear that makeup behavior was specified by "individuality".

(Received August 25, 2016 ; Accepted October 24, 2016)

Key words: *makeup standards, makeup behavior, Japanese, Thai, international comparison*

(Journal of the Japan Research Association for Textile End-Uses, Vol.58, pp.260-269, 2017)

要 旨

本研究では、日本人とタイ人の男女の化粧意識と化粧行動について比較検討をおこなった。化粧意識（『調和』『個性』『同調』）と化粧行動（『スキンケア』『メイクアップ』『クレンジング』『フレグランス』）の構造そのものは、日本人とタイ人でおおむね同じであった。部分的ではあるが、タイ人男子の化粧行動は『調和』『個性』『同調』の化粧意識が規定し、タイ人女子の化粧行動は『調和』『個性』『同調』の化粧意識が規定し、日本人男子の化粧行動は『個性』『同調』が規定し、日本人女子の化粧行動は『個性』が規定していることがわかった。

キーワード：化粧基準、化粧行動、日本、タイ、国際比較

[#]Corresponding Author: E-mail: ryuenhrmt@toua-u.ac.jp

1. はじめに

ひとは生きるなかで、所属する集団の成員としてふさわしい生活様式、行動、価値などを身につける。それは化粧も同様であり、それゆえに、ひとは状況に応じて一定の方法で化粧をおこなう。そして、そこには化粧基準ともいべき行動のよりどころがあり、それに照らしあわせて実際の行動を決定している。

平松¹⁾は、青年男女を対象に調査をおこない、化粧行動を規定する基準として、『個性』『社会的調和』『他者同調』という自己顯示的な基準と社会同化的な基準が存在することをあきらかにした。また、これらの化粧基準は、男性では私的自意識、外的他者意識が規定し、女性では、部分的にはあるが公的自意識、私的自意識、内的他者意識、外的他者意識、空想的他者意識が規定することもあきらかにした。

しかしながら、集団における生活様式、行動、価値といったものは、その集団がどのような文化、社会、環境に属しているかによって異なることが推測される。そこで本研究では、日本とタイの比較をおこなう。なお、タイを比較対象とした理由に、ASEANにおける化粧品市場への日本企業の進出への寄与を強調したい。

ASEAN 主要 5ヶ国（タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピン）の化粧品市場は、経済成長による個人消費の拡大や人口増加などが続いている²⁾。2014 年では小売金額ベースで、前年比 106.3% 増の拡大をしているとされる。現在においても引き続き、経済成長による国民所得の増加で市場は拡大し続けていると推定される。ASEANにおける化粧品市場に商品や企業を根付かせるためには、市場の特徴を知り、ASEANにおける消費者のブランドロイヤリティを確保することが重要である。だが、それ以上に、消費者の化粧意識や化粧行動を規定する基準について知り、マーケティングを展開していくことが肝要である。

ところで、日本とタイの化粧品市場を確認しておきたい。比較可能な 2012 年度において³⁾、日本国内の化粧品市場規模は、ブランドメーカー出荷金額ベースで 2 兆 2,900 億円と推定されている。化粧品市場は 1 兆 596 億円、メイクアップ市場は 5,016 億円だったとされる。このとき、化粧品市場では 1,000 円前後の低価格帯化粧品が市場を牽引し、メイクアップ市場では中価格帯のカウンセリングブランドから低価格帯のセルフセルフショッピングブランドへのシフトがすすんだとされる。また、男性化粧品市場は 1,095 億円であり、

ヘアスタイリング剤が低迷していたものの、ヘアケア製品やスキンケア製品が好調とされている。

一方タイは⁴⁾、化粧品市場規模は 663 億 3,700 万バーツと推定されている（2012 年における年平均 TTB は 2,49 円）。スキンケア市場は 507 億バーツ、メイクアップ市場は 157 億バーツだったとされる。化粧品市場に占めるスキンケア商品の割合はおよそ 76%，メイクアップ商品の割合はおよそ 23%。男性化粧品市場は 48 億バーツであり、スキンケア、シェービング、デオドラントなどで市場が拡大したとされている。なお、タイは日本から 1,190 トンの化粧品を輸入しており、そのシェアは 17.0% と、アメリカに次いで第 2 位だった。

なお、タイにおける化粧品の価格帯であるが、一般的にカウンターブランドとよばれる高価格帯のプレミアムブランド化粧品は、主にサイアムパラゴンのような百貨店などを販路とし、SHISEIDO、IPSA、KATE Tokyo、SK-II、THREE などが扱われている。その価格は 1,000 バーツを超え、20,000 バーツを超えるものもある。ワトソンなどのようなドラッグストアで販売されているマスブランドとしては、Hada Labo、MAJOLICA MAJORCA、AQUA LABEL などがある。その価格帯は、100 バーツ前後から 1,000 バーツ前後である。ほかにも、サイアムスクエアをはじめとする繁華街などにある露店、BTS（高架鉄道）の構内で展開する Karamart などの独立系店舗、セブンイレブンをはじめとするコンビニエンスストアでも、おもに 100 バーツ以下の低価格化粧品が販売されている。タイの法定最低賃金は日額 300 バーツであり、大学新卒者の平均初任給は月額 15,000 バーツといわれている。学生たちが世界展開するファーストフード店でアルバイトをした場合の時給は 45 バーツ程度であり、一部の富裕層を除いて、マスブランド化粧品が主に購入されていると推測される。

2. 調査の概要

2-1 調査の方法、調査時期、調査対象者

バンコクにある国立大学に通学する学生と神戸市にある私立大学に通学する学生を対象に、質問紙調査をおこなった。

倫理的配慮として調査票に研究の目的、また回答は任意であり、無記名で個人が特定されないと明記した。

タイ語の質問紙は、ネイティブ・レベルにタイ語を使用できる日本人大学院生が日本語の質問項

目をタイ語に翻訳し、作成した。使用前に、複数のタイ人によって質問項目の等価性を確認した。

調査対象者はタイ人男子 61 名（平均年齢 = 20.08 歳, SD = 1.61）、タイ人女子 239 名（平均年齢 = 20.15 歳, SD = 1.13）、日本人男子 89 名（平均年齢 = 19.84 歳, SD = 1.65）、日本人女子 112 名（平均年齢 = 19.41 歳, SD = 1.23）であった。なお、第 3 の性に属する学生が 19 名いたが、分析からは除外した。

2-2 調査内容

1) 化粧基準

Kwon⁵⁾⁶⁾ や 福岡・高木・神山・牛田・阿部⁷⁾ の研究における着装基準を参考に選定している平松⁸⁾の化粧基準 20 項目を用いた。

それぞれの項目について、自分自身にどの程度あてはまるかを「あてはまらない（1）」から「あてはまる（5）」までの 5 件法で回答を求めた。

2) 化粧行動

日本とタイの若者たちの化粧行動の実態を調べるために、化粧行動を 20 項目選定し、それぞれの化粧行動をどのくらいの頻度でおこなうかについて、「まったくしない（1）」から「いつもしている（5）」までの 5 件法で回答を求めた。

なお、化粧行動がどのような行動を指すかについては、平松⁹⁾が詳細にまとめている。だが、本研究では化粧の定義を、厚生労働省¹⁰⁾が定めた医薬品医療機器等法における「人の身体を清潔にし、美化し、魅力を増し、容貌を変え、又は皮膚若しくは毛髪を健やかに保つために、身体に塗擦、散布その他これらに類似する方法で使用されることが目的とされているもので、人体に対する作用が緩和なもの」にしたがった。そして、メイクアッ

プ（ファンデーション、アイシャドウ、ヘアスタイリングなど）、スキンケア（化粧水、乳液など）、フレグランス（香水、デオドラントなど）を化粧として扱い、その具体的な行動の内容を質問紙に明記した。

3) フェイス項目

年齢と性別を回答させた。

3. 結 果

3-1 化粧基準の基礎統計量

化粧基準の各項目の評定平均値をみてみたい（Table1）。

タイ人男子では、おおむね「簡単に出来る化粧をする」「周囲の人に失礼にならない化粧をする」「自分の性別や年齢にあっている化粧をする」が多く、「流行にあっている化粧をする」「目新しく人目をひく化粧をする」「季節にあっている化粧をする」が低い。一方で日本人男子では、おおむね「目新しく人目をひく化粧をする」「場所柄や雰囲気にあっている化粧をする」「自分の品位を傷つけない化粧をする」が多く、「周囲の人と同じ化粧をする」「季節にあっている化粧をする」「若々しく見える化粧をする」が低い。またタイ人女子では、おおむね「簡単に出来る化粧をする」「つけ心地がよい化粧をする」「自分を引き立てる化粧をする」が多く、「周囲の人と同じ化粧をする」「季節にあっている化粧をする」「流行にあっている化粧をする」が低い。一方で日本人女子では、おおむね「自分の好みにあっている化粧をする」「つけ心地がよい化粧をする」「自分の性別や年齢にあっている化粧をする」が高く、「伝統やしきたりにあっている化粧をする」「流行にあっている化粧をする」が低い。

Table1 化粧基準項目の差(ANOVA)

	タイ人男子		タイ人女子		日本人男子		日本人女子		F値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
自分の品位を傷つけない化粧をする	2.22	1.29	3.07	1.15	2.28	1.46	3.69	1.17	16.94 ***
流行にあっている化粧をする	2.08	1.22	2.78	1.09	2.26	1.54	2.42	1.18	5.74 **
お金がかからず経済的な化粧をする	3.00	1.62	3.59	1.17	2.18	1.42	3.31	1.43	16.83 ***
自分の魅力がアップできる化粧をする	2.51	1.50	3.59	1.15	2.30	1.56	3.56	1.27	21.49 ***
場所柄や雰囲気にあっている化粧をする	2.81	1.54	3.73	1.11	2.32	1.57	3.50	1.28	21.19 ***
目新しく人目をひく化粧をする	2.15	1.26	2.75	1.22	2.52	1.28	2.69	1.28	7.86 ***
自分の好みにあっている化粧をする	2.86	1.51	3.99	1.08	2.24	1.52	4.11	1.19	36.78 ***
自分を引き立てる化粧をする	3.00	1.56	4.02	1.02	2.20	1.47	3.42	1.34	35.69 ***
内面を引き出す化粧をする	2.64	1.55	3.23	0.99	2.10	1.37	2.75	1.16	14.73 ***
簡単に出来る化粧をする	3.34	1.56	4.16	1.00	2.26	1.47	3.97	1.18	37.49 ***
自分らしさが表現できる化粧をする	3.19	1.54	3.88	1.09	2.28	1.53	3.67	1.31	23.82 ***
伝統やしきたりにあっている化粧をする	2.78	1.46	3.27	1.18	1.96	1.35	2.03	1.08	21.89 ***
つけ心地がよい化粧をする	3.07	1.66	4.05	1.05	2.08	1.41	4.00	1.12	40.63 ***
周囲の人に失礼にならない化粧をする	3.29	1.62	3.95	1.04	2.18	1.51	3.75	1.16	29.67 ***
周囲の人と同じ化粧をする	2.25	1.38	2.31	1.08	1.78	1.11	2.56	1.13	3.89 **
季節にあっている化粧をする	2.17	1.21	2.36	1.15	1.86	1.18	2.72	1.37	4.27 **
自分の性別や年齢にあっている化粧をする	3.27	1.64	3.86	1.02	2.28	1.54	3.94	1.07	25.29 ***
自分の社会的地位・立場にふさわしい化粧をする	2.92	1.62	3.14	1.16	2.20	1.48	3.83	1.13	12.20 ***
周囲の人から信頼を得難わない化粧をする	3.08	1.63	3.49	1.13	2.20	1.46	3.69	1.19	15.66 ***
若々しく見える化粧をする	2.75	1.54	3.81	1.08	2.12	1.42	3.31	1.37	31.30 ***

自由度は(3,363), ***p<.001, **p<.01

男女と国籍の違いによる差を検討するため、Scheffeによる多重比較をおこなった。

その結果、「自分の品位を傷つけない化粧をする」(タイ人男子 < タイ人女子・日本人女子: $p < .001$) (日本人男子 < 日本人女子: $p < .001$) (日本人男子 < タイ人女子: $p < .01$) (タイ人女子 < 日本人女子: $p < .05$), 「流行にあっている化粧をする」(タイ人男子 < タイ人女子: $p < .01$), 「お金がかからず経済的な化粧をする」(日本人男子 < タイ人女子: $p < .001$) (日本人男子 < 日本人女子: $p < .01$) (タイ人男子 < タイ人女子: $p < .05$) (日本人男子 < タイ人男子: $p < .05$), 「自分の魅力がアップできる化粧をする」(タイ人男子 < タイ人女子: $p < .001$) (日本人男子 < タイ人女子・日本人女子: $p < .001$) (タイ人男子 < 日本人女子: $p < .01$), 「場所柄や雰囲気にあっている化粧をする」(タイ人男子 < タイ人女子: $p < .001$) (日本人男子 < タイ人女子: $p < .001$) (日本人男子 < 日本人女子: $p < .01$), 「目新しく人目をひく化粧をする」(日本人男子 < タイ人女子: $p < .01$) (タイ人男子 < タイ人女子: $p < .05$), 「自分の好みにあっている化粧をする」(タイ人男子・日本人男子 < タイ人女子・日本人女子: $p < .001$), 「自分を引き立てる化粧をする」(タイ人男子・日本人男子 < タイ人女子: $p < .001$) (日本人男子 < 日本人女子: $p < .01$) (日本人男子 < タイ人男子: $p < .01$), 「内面を引き出す化粧をする」(日本人男子 < タイ人女子: $p < .001$) (タイ人男子 < タイ人女子: $p < .01$), 「簡単に出来る化粧をする」(タイ人男子 < タイ人女子: $p < .001$) (日本人男子 < タイ人女子・日本人女子: $p < .001$) (タイ人男子 < 日本人男子: $p < .001$), 「自分らしさが表現できる化粧をする」(日本男子 < タイ人女子・日本人女子: $p < .001$) (タイ人男子 < タイ人女子: $p < .05$) (日本人男子 < タイ人男子: $p < .05$), 「伝統やしきたりにあっている化粧をする」(日本人男子・日本人女子 < タイ人女子: $p < .001$) (日本人男子 < タイ人男子: $p < .01$) (タイ人女子 < タイ人男子: $p < .05$), 「つけ心地がよい化粧をする」(タイ人男子・日本人男子 < タイ人女子: $p < .001$) (日本人男子 < 日本人女子: $p < .001$) (日本人男子 < タイ人男子: $p < .01$) (タイ人男子 < 日本人女子: $p < .05$), 「周囲の人々に失礼にならない化粧をする」(日本人男子 < タイ人男子: $p < .001$) (日本人男子 < タイ人女子・日本人女子: $p < .001$) (タイ人男子 < タイ人女子: $p < .01$), 「周囲の人と同じ化粧をする」(日本人男子 < タイ人女子・日本人女子: $p < .05$), 「季節に

あっている化粧をする」(日本人男子 < 日本人女子: $p < .01$), 「自分の性別や年齢にあっている化粧をする」(日本人男子 < タイ人女子・日本人女子: $p < .001$) (日本人男子 < タイ人男子: $p < .01$)

(タイ人男子 < タイ人女子: $p < .05$), 「自分の社会的地位・立場にふさわしい化粧をする」(日本人男子 < タイ人女子・日本人女子: $p < .001$) (日本人男子 < タイ人男子: $p < .05$) (タイ人男子 < 日本人女子: $p < .05$) (タイ人女子 < 日本人女子: $p < .05$), 「周囲の人から信用を損なわない化粧をする」(日本人男子 < タイ人女子・日本人女子: $p < .001$) (日本人男子 < タイ人男子: $p < .01$), 「若々しく見える化粧をする」(タイ人男子・日本人男子 < タイ人女子: $p < .001$) (日本人男子 < 日本人女子: $p < .001$) で有意な主効果が認められた。

3-2 化粧基準の構造

タイ人と日本人の化粧基準の構造をあきらかにするため、評定平均値をもとに主成分分析(Equamax回転)をそれぞれおこなった。なお、因子の選定は、Kaiser-Guttmanによる最低固有値1.0を基準とした。

その結果、タイ人と日本人の因子構造はほぼ同じ結果であったので、タイ人と日本人をあわせて同様に主成分分析をおこなった(Table 2)。

第1因子は、「つけ心地がよい化粧をする」「簡単に出来る化粧をする」「周囲の人に失礼にならない化粧をする」などの項目が高く寄与したため、『調和』($\alpha=0.94$)と命名した。第2因子は、「自

Table 2 化粧基準因子(主成分分析)

	調和	個性	同調
つけ心地がよい化粧をする	0.83	0.16	0.22
簡単に出来る化粧をする	0.81	0.22	0.18
周囲の人に失礼にならない化粧をする	0.80	0.21	0.31
自分の性別や年齢にあっている化粧をする	0.72	0.34	0.26
自分らしさが表現できる化粧をする	0.70	0.40	0.19
若々しく見える化粧をする	0.67	0.35	0.27
周囲の人から信用を損なわない化粧をする	0.61	0.39	0.38
場所柄や雰囲気にあっている化粧をする	0.57	0.57	0.28
お金がかからず経済的な化粧をする	0.54	0.30	0.24
自分の品位を傷つけない化粧をする	0.22	0.77	0.27
自分の魅力がアップできる化粧をする	0.42	0.77	0.20
流行にあっている化粧をする	0.08	0.77	0.36
目新しく人目をひく化粧をする	0.04	0.69	0.47
自分を引き立てる化粧をする	0.59	0.67	0.15
自分の好みにあっている化粧をする	0.61	0.63	0.06
内面を引き出す化粧をする	0.41	0.57	0.35
周囲の人と同じ化粧をする	0.12	0.09	0.82
季節にあっている化粧をする	0.03	0.37	0.71
伝統やしきたりにあっている化粧をする	0.53	0.05	0.57
自分の社会的地位・立場にふさわしい化粧をする	0.38	0.45	0.50
固有値	5.99	4.88	3.00
累積寄与率	29.95	54.34	69.32
a	0.94	0.90	0.74

分の品位を傷つけない化粧をする」「自分の魅力がアップできる化粧をする」「流行にあっている化粧をする」などの項目が高く寄与したため、『個性』($\alpha=0.90$)と命名した。第3因子は、「周囲の人と同じ化粧をする」「季節にあっている化粧をする」「伝統やしきたりにあっている化粧をする」などの項目が高く寄与したため、『同調』($\alpha=0.74$)と命名した。

この3因子で簡便因子得点（各因子をより明確にするため、因子ごとに高く負荷する項目の得点を合計し、それをその項目数で除する方法）を算出し、以後の分析データとした。

3-3 化粧基準の男女差

化粧基準の各因子の男女と国籍による差を検討するため, Scheffe による多重比較をおこなった.

その結果 (Table 3), 『調和』(タイ人男子 < タイ人女子 : $p < .001$) (日本人男子 < タイ人男子・タイ人女子・日本人女子 : $p < .001$) (タイ人男子 < 日本人女子 : $p < .05$), 『個性』(タイ人男子 < タイ人女子 : $p < .001$) (日本人男子 < タイ人女子・日本人女子 : $p < .001$) (タイ人男子 < 日本人女子 : $p < .01$), 『同調』(日本人男子 < タイ人女子 : $p < .001$) (日本人男子 < 日本人女子 : $p < .001$) (日本人男子 < タイ人男子 : $p < .05$) で有意な主効果が認められた。

3-4 化粧行動の基礎統計量

次に、化粧行動の各項目の評定平均値をみてみたい（Table 4）。

Table3 化粧基準因子の差(ANOVA)

タイ人男子		タイ人女子		日本人男子		日本人女子		F値	有意水準
平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
調和	3.09	1.32	3.84	0.77	2.21	1.32	3.68	0.78	42.54 ***
個性	2.50	1.25	3.34	0.84	2.19	1.32	3.21	0.88	25.19 ***
同調	2.53	1.21	2.77	0.79	1.95	1.11	2.78	0.69	11.57 ***

Table4 化粧行動項目の差(ANOVA)

	タイ人男子		タイ人女子		日本人男子		日本人女子		F値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
顔の保湿（化粧水・乳液など）	2.98	1.48	4.00	1.07	2.50	1.52	4.39	1.07	49.42 ***
ベースメイク（ファンデーションなど）	1.89	1.28	3.26	1.41	1.89	1.18	4.11	1.24	60.28 ***
髪のトリートメント（トリートメントなど）	3.25	1.38	4.01	1.08	2.76	1.44	4.06	1.10	27.76 ***
唇の保湿（リップクリームなど）	2.60	1.52	4.13	1.10	2.56	1.47	4.17	1.18	51.36 ***
日焼け止め	2.84	1.45	4.03	1.16	2.33	1.33	3.36	1.29	42.31 ***
香水	3.00	1.45	3.16	1.44	2.64	1.40	2.97	1.52	2.60
マニキュア	1.19	0.67	2.66	1.41	1.89	1.30	2.91	1.32	28.90 ***
顔のクレンジング（洗顔料・クレンジング剤など）	3.53	1.47	4.05	1.24	2.79	1.60	4.66	0.71	37.90 ***
アイメイク（アイシャドウ・マスカラなど）	1.42	1.07	2.93	1.52	1.68	1.08	4.20	1.27	78.44 ***
ピアス/イヤリング	1.88	1.32	2.85	1.57	2.19	1.40	3.69	1.47	24.81 ***
髪のスタイリング（ワックス・ムースなど）	2.47	1.28	2.14	1.26	3.13	1.50	3.12	1.44	18.35 ***
デオドラント（制汗剤など）	3.60	1.41	3.32	1.32	2.51	1.53	3.06	1.36	8.99 ***
手・足・肘・膝の保湿（ハンドクリームなど）	2.54	1.36	3.08	1.31	2.38	1.41	3.43	1.26	12.32 ***
頭皮のクレンジング	4.70	0.60	4.70	0.58	2.41	1.46	2.70	1.33	178.32 ***
脱毛	2.95	1.46	3.82	1.17	2.05	1.33	3.22	1.32	40.47 ***
整眉	1.74	1.28	3.73	1.53	3.08	1.37	4.04	0.95	42.38 ***
染髪	2.19	1.34	3.11	1.46	2.39	1.37	3.78	1.29	23.34 ***
顔のパック	2.18	1.48	3.29	1.20	1.90	1.16	3.17	1.24	33.30 ***
オイルコントロール（あぶらとり紙など）	3.11	1.30	3.43	1.15	1.94	1.27	2.34	1.20	40.54 ***
鼻のパック	2.16	1.45	2.90	1.24	2.03	1.36	2.50	1.31	11.54 ***

・タイ人男子では、おおむね「頭皮のクレンジング」「顔のクレンジング」「髪のトリートメント」をしており、「マニキュア」「アイメイク」「整眉」をしていない。一方で日本人男子では、おおむね「髪のスタイリング」「整眉」「顔のクレンジング」をしており、「アイメイク」「マニキュア」「ベースメイク」をしていない。またタイ人女子では、おおむね「頭皮のクレンジング」「唇の保湿」「顔のクレンジング」をしており、「髪のスタイリング」「マニキュア」「鼻のパック」をしていない。一方で日本人女子では、おおむね「顔のクレンジング」「顔の保湿」「アイメイク」をしており、「オイルコントロール」「鼻のパック」「マニキュア」をしていない。

男女と国籍の違いによる差を検討するため、 Scheffe による多重比較をおこなった。

その結果、「顔の保湿」(タイ人男子・日本人男子<タイ人女子・日本人女子:p<.001),「ベースメイク」(タイ人男子・日本人男子<タイ人女子・日本人女子:p<.001), (タイ人女子<日本人女子:p<.001), 「髪のトリートメント」(タイ人男子・日本人男子<タイ人女子:p<.001) (日本人男子<日本人女子:p<.001) (タイ人男子<日本人女子:p<.01), 「唇の保湿」(タイ人男子・日本人男子<タイ人女子・日本人女子:p<.001), 「日焼け止め」(タイ人男子・日本人男子<タイ人女子:p<.001) (日本人女子<タイ人女子:p<.001) (日本人男子<日本人女子:p<.001), 「マニキュア」(タイ人男子・日本人男子<タイ人女子・日本人女子:p<.001) (タイ人男子<日本人男子:p

<.05), 「顔のクレンジング」(タイ人男子・日本人男子<日本人女子: p <.001) (日本人男子<タイ人女子: p <.001) (日本人男子<タイ人男子: p <.01) (タイ人女子<日本人女子: p <.01) (タイ人男子<タイ人女子: p <.05), 「アイメイク」(タイ人男子・日本人男子<タイ人女子・日本人女子: p <.001) (タイ人女子<日本人女子: p <.001), 「ピアス/イヤリング」(タイ人男子<タイ人女子・日本人女子: p <.001) (タイ人女子<日本人女子: p <.001) (日本人男子<日本人女子: p <.001) (日本人男子<タイ人女子: p <.01), 「髪のスタイリング」(タイ人女子<日本人男子・日本人女子: p <.001) (タイ人男子<日本人女子: p <.05), 「デオドラント」(タイ人男子<日本人男子: p <.001) (タイ人女子<日本人男子: p <.001), 「手・足・肘・膝の保湿」(日本人男子<日本人女子: p <.001) (タイ人男子<日本人女子: p <.01) (日本人男子<タイ人女子: p <.01), 「頭皮のクレンジング」(日本人男子・日本人女子<タイ人男子・タイ人女子: p <.001), 「脱毛」(タイ人男子・日本人男子<タイ人女子: p <.001) (タイ人男子<日本人女子: p <.01) (日本人女子<タイ人女子: p <.01), 「整眉」(タイ人男子<タイ人女子・日本人男子・日本人女子:

p <.001) (日本人男子<日本人女子: p <.001) (日本人男子<タイ人女子: p <.05), 「染髪」(タイ人男子<タイ人女子・日本人女子: p <.001) (日本人男子<日本人女子: p <.001) (日本人男子<タイ人女子: p <.01) (タイ人女子<日本人女子: p <.01), 「顔のパック」(タイ人男子・日本人男子<タイ人女子・日本人女子: p <.001), 「オイルコントロール」(日本人男子<タイ人男子: p <.001) (日本人男・日本人女子<タイ人女子: p <.001) (日本人女子<タイ人男子: p <.05), 「鼻のパック」(日本人男子<タイ人女子: p <.001) (タイ人男子<タイ人女子: p <.05) で有意な主効果が認められた。

3-5 化粧行動の構造

タイ人と日本人の化粧行動の構造をあきらかにするため、評定平均値をもとに主成分分析(Equamax回転)をそれぞれおこなった。なお、因子の選定は、Kaiser-Guttmanによる最低固有値1.0を基準とした。

その結果、タイ人と日本人の因子構造はほぼ同じ結果であったので、タイ人と日本人をあわせて同様に主成分分析をおこなった(Table 5)。

第1因子は、「唇の保湿」「顔の保湿」「髪のトリ

Table5 化粧行動因子(主成分分析)

	スキンケア	メイクアップ	クレンジング	フレグランス
唇の保湿 (リップクリームなど)	0.77	0.19	0.17	0.17
顔の保湿 (化粧水・乳液など)	0.70	0.25	0.25	0.10
髪のトリートメント (トリートメントなど)	0.69	0.09	0.15	0.28
日焼け止め	0.62	0.01	0.44	0.17
顔のクレンジング (洗顔料・クレンジング剤)	0.59	0.28	0.17	0.11
染髪	0.19	0.68	0.25	0.19
アイメイク (アイシャドウ・マスカラなど)	0.45	0.66	0.03	0.16
ピアス/イヤリング	0.06	0.63	0.07	0.28
マニキュア	0.15	0.61	0.23	0.20
ベースメイク (ファンデーションなど)	0.56	0.60	0.11	0.04
整眉	0.40	0.55	0.07	0.11
オイルコントロール (あぶらとり紙など)	0.11	0.16	0.83	0.15
鼻のパック	0.08	0.30	0.78	0.10
頭皮のクレンジング	0.16	-0.34	0.69	0.20
顔のパック	0.27	0.46	0.64	0.12
脱毛	0.29	0.08	0.55	0.23
デオドラント (制汗剤など)	0.15	0.03	0.24	0.77
香水	0.12	0.13	0.14	0.73
髪のスタイリング (ワックス・ムースなど)	-0.15	0.48	-0.17	0.55
手・足・肘・膝の保湿 (ハンドクリームなど)	0.36	0.21	0.26	0.50
固有値	3.42	3.26	3.13	2.16
累積寄与率	17.09	33.37	49.03	59.83
a	0.83	0.83	0.81	0.66

Table6 化粧行動因子の差(ANOVA)

タイ人男子	タイ人女子		日本人男子		日本人女子		F値	有意水準
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
スキンケア	3.04	1.10	4.04	0.80	2.59	1.08	4.13	0.72
メイクアップ	1.72	0.83	3.09	1.02	2.18	0.89	3.79	0.80
クレンジング	3.02	0.87	3.63	0.79	2.07	1.07	2.79	0.88
フレグランス	2.90	0.91	2.93	1.00	2.66	1.00	3.14	0.98

自由度は(3,472), ***p<.001, *p<.05

「トメント」などの項目が高く寄与したため、『スキンケア』($\alpha=0.83$)と命名した。第2因子は、「染髪」「アイメイク」「ピアス/イヤリング」などの項目が高く寄与したため、『メイクアップ』($\alpha=0.83$)と命名した。第3因子は、「オイルコントロール」「鼻のパック」「頭皮のクレンジング」などの項目が高く寄与したため、『クレンジング』($\alpha=0.81$)と命名した。第4因子は、「デオドラント」「香水」「髪のスタイリング」などの項目が高く寄与したため、『フレグランス』($\alpha=0.66$)と命名した。

この4因子で簡便因子得点(各因子をより明確にするため、因子ごとに高く負荷する項目の得点を合計し、それをその項目数で除する方法)を算出し、以後の分析データとした。

3-6 化粧行動の男女差

化粧行動の各因子の男女と国籍による差を検討するため、Scheffeによる多重比較をおこなった。

その結果(Table 6)、『スキンケア』(タイ人男子・日本人男子 < タイ人女子・日本人女子: $p < .001$) (日本人男子 < タイ人男子: $p < .05$)、『メイクアップ』(タイ人男子・日本人男子 < タイ人女子・日本人女子: $p < .001$) (タイ人女子 < 日本人女子:

$p < .001$) (タイ人男子 < 日本人男子: $p < .05$)、『クレンジング』(タイ人男子 < タイ人女子: $p < .001$) (日本人男子 < タイ人男子: $p < .001$) (日本人男子・日本人女子 < タイ人女子: $p < .001$) (日本人男子 < 日本人女子: $p < .001$)、『フレグランス』(日本人男子 < 日本人女子: $p < .05$) で有意な主効果が認められた。

3-7 化粧行動を規定する化粧基準

化粧行動を規定する化粧基準をあきらかにするために、男女別・国籍別に化粧行動を目的変数とし、化粧基準の各因子を説明変数とする重回帰分析をStepwiseによる変数選択法でおこなった。

その結果、『スキンケア』の場合(Table 7)、タイ人男子とタイ人女子では『個性』が正に、日本人男子では『同調』が正に有意に選択された。『メイクアップ』の場合(Table 8)、タイ人男子とタイ人女子では『個性』が正と『同調』が負に、日本人男子では『同調』が正に、日本人女子では『個性』が正に有意に選択された。『クレンジング』の場合(Table 9)、タイ人男子とタイ人女子では『個性』が正に、日本人男子では『同調』が正に有意に選択された。『フレグランス』の場合(Table 10)、タイ人男子では『調和』が正に、タイ人女子では

Table 7 スキンケアを規定する化粧基準

	タイ人男子	タイ人女子	日本人男子	日本人女子
	B	B	B	B
調 和				
個 性	0.61 ***	0.38 ***		
同 調			0.50 ***	
決定係数	0.36 ***	0.14 ***	0.24 ***	

*** $p < .001$

Table 8 メイクアップを規定する化粧基準

	タイ人男子	タイ人女子	日本人男子	日本人女子
	B	B	B	B
調 和				
個 性	0.87 ***	0.72 ***		0.61 ***
同 調	-0.48 **	-0.15 *	0.48 **	
決定係数	0.33 **	0.41 *	0.21 **	0.36 ****

*** $p < .001$ 、 ** $p < .01$ 、 * $p < .05$

Table 9 クレンジングを規定する化粧基準

	タイ人男子	タイ人女子	日本人男子	日本人女子
	B	B	B	B
調 和				
個 性	0.49 ***	0.28 ***		
同 調			0.34 *	
決定係数	0.22 ***	0.07 ***	0.10 *	

*** $p < .001$ 、 * $p < .05$

Table 10 フレグランスを規定する化粧基準

	タイ人男子	タイ人女子	日本人男子	日本人女子
	B	B	B	B
調 和	0.33 *	-0.17 *		
個 性		0.43 ***	0.35 *	0.59 ***
同 調				
決定係数	0.09 *	0.12 *	0.11 *	0.33 ***

*** $p < .001$ 、 * $p < .05$

『調和』が負と『個性』が正に、日本人男子と日本人女子では『個性』が正に有意に選択された。

4. 考 察

4-1 化粧基準

タイ人か日本人かにかかわらず、多くの化粧基準項目で男女差が認められた。男女差が認められなかった項目は、タイ人では「伝統やしきたりにあっている化粧をする」「周囲の人と同じ化粧をする」「季節にあっている化粧をする」「自分の社会的地位・立場にふさわしい化粧をする」「周囲の人から信用を損なわない化粧をする」だった。一方、日本人では「流行にあっている化粧をする」「目新しく人目をひく化粧をする」「内面を引き出す化粧をする」「伝統やしきたりにあっている化粧をする」「自分の社会的地位・立場にふさわしい化粧をする」だった。国籍差が認められた項目がいくつもあり、男性では「お金がかからず経済的な化粧をする」「自分を引き立てる化粧をする」「簡単に出来る化粧をする」「自分らしさが表現できる化粧をする」「伝統やしきたりにあっている化粧をする」「つけ心地がよい化粧をする」「周囲の人に失礼にならない化粧をする」「自分の性別や年齢にあっている化粧をする」「自分の社会的地位・立場にふさわしい化粧をする」「周囲の人から信用を損なわない化粧をする」でタイ人が日本人を上回っていた。一方、女性では「伝統やしきたりにあっている化粧をする」でタイ人が日本人を、「自分の品位を傷つけない化粧をする」「自分の社会的地位・立場にふさわしい化粧をする」でタイ人よりも日本人が上回っていた。一般的に、タイ社会を都市部と農村部という典型的な二層社会とする考察が多い¹¹⁾。だが実際は、仏教僧や王族を頂点とする多層的なヒエラルキー社会であり、日本にはほとんど存在しない日常的な出身階層や経済格差を意識する場面が多い。そのため、「伝統やしきたりにあっている化粧をする」「周囲の人に失礼にならない化粧をする」「自分の性別や年齢にあっている化粧をする」「自分の社会的地位・立場にふさわしい化粧をする」「周囲の人から信用を損なわない化粧をする」といった項目で、相対的にタイ人のほうが日本人よりもあてはまると言えていると推測される。

日本人とタイ人の化粧基準の構造を検討するため、主成分分析をおこなったところ、共通して『調和』『個性』『同調』の3因子があきらかとなった。平松⁸⁾の化粧基準では『個性』『社会的調和』『他者同調』があきらかとなっているが、本研究にお

ける『調和』は『社会的調和』に、『個性』は『個性』に、『同調』は『他者同調』に対応する結果となった。『同調』におけるタイ人を除いて、国籍に関係なく、全ての因子で男性よりも女性のほうが高かった。また、女子では日本人とタイ人で差は認められなかつたが、男子では全ての因子で差が認められ、タイ人のほうが日本人よりも高かつた。これは、化粧基準の習得における社会化的要因が、男性は日本人とタイ人で異なるからだと推測される。すなわち、化粧に対する意識が異なることが考えられる。だが、女性ではタイ人と日本人とのあいだで差は認められなかつたことから、女性については社会化的要因や化粧に対する意識などが同じであろうと推測される。これについては今後、化粧意識を日タイで比較するといった、より詳細な検討が必要である。

4-2 化粧行動

タイ人か日本人かにかかわらず、多くの化粧行動項目で男女差が認められた。男女差が認められなかつた項目は、タイ人では「髪のスタイリング」「デオドラント」「手・足・肘・膝の保湿」「オイルコントロール」だった。一方、日本人では「髪のスタイリング」「デオドラント」「オイルコントロール」「鼻パック」だった。国籍差が認められた項目がいくつもあり、男性では「マニキュア」「整眉」でタイ人よりも日本人がよりおこない、「顔のクレンジング」「デオドラント」「脱毛」「オイルコントロール」でタイ人が日本人よりもおこなっていた。一方、女性では「ベースメイク」「顔のクレンジング」「アイメイク」「ピアス/イヤリング」「染髪」でタイ人よりも日本人がよりおこない、「日焼け止め」「脱毛」でタイ人のほうが日本人よりもおこなっていた。これは、タイと日本の気候といった環境的な要因が影響していると推測される。すなわち、タイの方が日本に比べて気温が高く、日照時間も長い。そのため、タイ人のほうが日本人よりも「日焼け止め」や「オイルコントロール」をおこない、肌を露出する（いわゆる夏服を使用する）機会も多いことから「脱毛」をおこなっているのではないかと考えられる。女性で「アイメイク」や「ベースメイク」に差が認められたのは、タイと日本の文化差があるのではないかと推測される。すなわち、日本人の場合は高等学校在学時に化粧をおこなうことは、校則をはじめとして社会通念的にも抑制される。だが一方で、大学進学後はむしろ身だしなみとして化粧をすることをす

すめられる場合が多い。タイの場合、大学には服装に関する規定は存在するものの、化粧に関する校則はない。だが、公式の校則とは別に、上級生が下級生に科すルールがあり、一般的には上級生よりも華美な外見は許されず、当然ながら化粧も控えめなものとなる。今回のタイと日本の調査対象者は、20歳前後であり、このいわば大学に関する文化差が化粧行動に影響している。化粧行動項目のなかで、「頭皮のクレンジング」が特に差が大きく認められた。これは、質問の意図としては、シャンプーとは異なる行動として「頭皮のクレンジング」を設定したが、日本人はクレンジングをシャンプーと異なる行動としてとらえているものの、タイ人はシャンプーと同一の行動としてとらえた可能性がある。

日本人とタイ人の化粧行動の構造を検討するため、主成分分析をおこなったところ、共通して『スキンケア』『メイクアップ』『クレンジング』『フレグランス』の4つの因子があきらかとなった。これらは、化粧のもつ肌の手入れ、装飾、香りという目的に対応する結果である。一般的には、『クレンジング』という汚れ除去は『スキンケア』に含まれるとも考えられるが、本研究では保湿など肌に加える行動と肌から油などを除去する行動で別れる結果となった。『フレグランス』におけるタイ人を除いて、国籍に関係なく、全ての因子で男性よりも女性のほうが高かった。また国籍別にみると、男性では『メイクアップ』でタイ人よりも日本人のほうが、『スキンケア』『クレンジング』でタイ人のほうが日本人よりもおこなっていた。一方、女性では『メイクアップ』でタイ人よりも日本人のほうがよりおこなっていた。

4-3 化粧行動を規定する化粧意識

化粧行動を規定する化粧意識について検討をおこなったところ、『スキンケア』では、タイ人男子・タイ人女子とともに『個性』が高いほど、日本人男子では『同調』が高いほどおこなうことがわかった。すなわち、タイ人の場合では「自分の魅力がアップできる化粧をする」「流行にあっている化粧をする」という意識が、日本人男子の場合は「周囲の人と同じ化粧をする」「季節にあっている化粧をする」という意識が、『スキンケア』をさせている。また、『メイクアップ』では、タイ人男子・タイ人女子ともに『個性』が高く『同調』が低いほど、日本人男子では『同調』が高いほど、日本人女子では『個性』が高いほどおこなうことがわかった。

った。すなわち、タイ人の場合では「自分の魅力がアップできる化粧をする」「流行にあっている化粧をする」という意識や「周囲の人と同じ化粧をする」「季節にあっている化粧をする」という意識が、日本人男子の場合は「周囲の人と同じ化粧をする」「季節にあっている化粧をする」という意識が、日本人女子の場合は「自分の魅力がアップできる化粧をする」「流行にあっている化粧をする」という意識が、『メイクアップ』をさせている。『クレンジング』では、タイ人男子・タイ人女子とともに『個性』が高いほど、日本人男子では『同調』が高いほどおこなうことがわかった。すなわち、タイ人の場合では「自分の魅力がアップできる化粧をする」「流行にあっている化粧をする」という意識が、日本人男子の場合は「周囲の人と同じ化粧をする」「季節にあっている化粧をする」という意識が『クレンジング』をさせている。『フレグランス』では、タイ人男子は『調和』が高いほど、タイ人女子では『調和』が低く『個性』が高いほど、日本人男子と日本人女子では『個性』が高いほどおこなうことがわかった。すなわち、タイ人男子では「簡単にできる化粧をする」「周囲の人に失礼にならない化粧をする」という意識が、タイ人女子では「簡単にできる化粧をする」「周囲の人に失礼にならない化粧をする」という意識や「自分の魅力がアップできる化粧をする」「流行にあっている化粧をする」という意識が、日本人男子と日本人女子では「自分の魅力がアップできる化粧をする」「流行にあっている化粧をする」という意識が『フレグランス』をさせている。おおむね部分的ではあるが、タイ人男女の化粧行動は『個性』の化粧基準が規定し、日本人男子の化粧行動は『同調』の化粧基準が規定し、日本人女子の化粧行動は『個性』の化粧基準が規定している。すなわち、タイ人男子と日本人男子のあいだで異なる化粧基準が化粧行動を規定しており、その理由については社会的要因などが影響していると推測されるが、今後、詳細な検討が必要である。

5. まとめと今後の課題

本研究では、日本人とタイ人の男女の化粧意識と化粧行動について比較検討をおこなった。化粧意識と化粧行動の構造そのものは、日本人とタイ人でおおむね同じであった。だが、意識する化粧意識やおこなう化粧行動の程度には、日本とタイで違いが認められた。

今後の課題として、これらの差を生じさせる要

因がはたして文化的・地域環境的な要因なのか、それとも性格特性といった個人差要因によるものなのか、詳細な検討が必要である。また、調査対象者の世帯年収、可処分所得、アルバイト状況などを調査することで、化粧をめぐるより具体的な消費行動をあきらかにしたい。

参考文献

- 1) 平松隆円；化粧行動を規定する化粧基準の構造解明、佛教大学教育学部学会紀要、9：147-154（2010）
- 2) 矢野経済研究所；ASEAN 化粧品マーケティング総鑑、(2015)
- 3) 矢野経済研究所；化粧品マーケティング総鑑、(2013)
- 4) 日本貿易振興機構；平成 25 年度タイの化粧品・パーソナルケア商品市場調査、(2014)
- 5) Yoon-Hee Kwon; Daily Clothing Selection: Interrelationships Among Motivating Factors, Clothing and Textiles Research Journal,: 5(2): 21-27 (1987)
- 6) Yoon-Hee Kwon; Effects of Situational and Individual Influences on the Selection of Daily Clothing, Clothing and Textiles Research Journal, 6(4): 6-12 (1988)
- 7) 福岡欣治・高木修・神山進・牛田聰子・阿部久美子；着装規範に関する研究（第 1 報）—生活場面と着装基準の関連性—、纖消誌、39 (11) : 42-48 (1998)
- 8) 平松隆円；化粧規範移管する研究・社会的場面で施す化粧程度の構造と個人差要因との関連性 -、ファッションビジネス学会論文誌、16 : 41-52 (2011)
- 9) 平松隆円；化粧にみる日本文化・だれのためによそおうのか、水曜社 (2009)
- 10) 厚生労働省；医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律、改正平成 27 年 6 月 26 日法律 50 号、(2015)
- 11) 田中忠治；タイ入門、日中出版 (1989)